資料５

長期構想の実現に向けて

（仙台塩釜港長期構想２０２６（最終案）第５章）

5.長期構想の実現に向けて

長期構想の実現に向けては、本構想のコンセプトである「仙台塩釜港の全体最適化により、あらゆるニーズに応える『総合港湾』」のもと、「物流戦略」「防災・施設維持戦略」「環境戦略」「観光・交流戦略」の4つの戦略、12の主要施策、35の取組を体系的に整理しています。

全体コンセプト

仙台塩釜港の全体最適化により、あらゆるニーズに応える「総合港湾」へ

4港区が持つそれぞれの強みを最大限に生かしながら、港区毎の機能強化に留まらず、ハード・ソフトの両面において連携・補完し合えるよう機能の再編と再構築を図ることで、総合港湾として最適で最高な港湾サービスを提供し、多様化する港湾ニーズへ的確に対応していきます。

戦略1（物流戦略）
宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスの提供

- 主要施策 1 グローバルゲートウェイとして最高のコンテナ物流を実現
- 主要施策 2 国内長距離輸送を支えるユニットロードターミナルの機能強化
- 主要施策 3 臨海部産業の持続的発展を支えるバルク港湾機能の強化
- 主要施策 4 仙台塩釜港の持続的成長を支える集貨・創貨の促進と港湾人材の確保

戦略2（防災・施設維持戦略）
BCPが充実した安全・安心で強靭な広域海上防災拠点を構築

- 主要施策 1 サプライチェーン維持と海上防災支援を担う拠点機能の強化
- 主要施策 2 持続可能で強靭な港湾の形成に向けた施設の計画的メンテナンスの推進
- 主要施策 3 県内外の広域的な支援体制の構築と港湾BCPの充実強化

戦略3（環境戦略）
自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

- 主要施策 1 国際拠点港湾としての社会的役割を踏まえた脱炭素化の着実な推進
- 主要施策 2 自然環境の保全と共生に向けた取組の推進

戦略4（観光・交流戦略）
地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

- 主要施策 1 各港区の連携・補完によるクルーズ船、インバウンドの受け入れ体制の強化
- 主要施策 2 地域の賑わい拠点となるウォーターフロントの形成と魅力ある観光目的地づくりの推進
- 主要施策 3 地域の実情を踏まえた適切なマリンレジャーの推進

仙台塩釜港が直面する課題が複雑化・多様化している現在において、それぞれの施策を個別に進めるだけでは限界があります。物流の効率化や施設維持、脱炭素化、防災機能の強化、地域の賑わいづくりなどを、関係者間で情報共有し相互に連携させながら推進し、戦略分野の枠を超えた相乗効果（シナジー）を最大限に引き出すことが不可欠となります。

このため、取組の推進に当たっては、港湾管理者である県をはじめ、国・関係市町・港湾利用者など多様な主体が適切な役割分担と緊密な連携のもと、各種取組を計画的かつ柔軟に展開します。

5-1.施策実施の方向性

長期構想で描いた20～30年先の将来像からバックキャスティング（逆算）して、現在の課題や短中期で取り組むべき施策や方向性を考え、実際の施設配置や規模に落とし込む手法により各施策を実施していきます。

戦略1（物流戦略）
宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスの提供

物流戦略においては、背後施設の再編や設備導入など早期の効果発現を期待できるものから取り組んでいくほか、港区間の機能再配置や機能強化による混雑解消を目指します。

また、ポートセールスや人材確保のためのソフト的な体制構築を図り、ハード・ソフト含めた港湾物流サービスの提供に取り組みます。

戦略2（防災・施設維持戦略）
BCPが充実した安全・安心で強靭な広域海上防災拠点を構築

防災・施設維持においては、発災直後に緊急物資輸送船等が港湾を利用できるよう耐震強化岸壁の整備を図るほか、関係機関と調整し背後の緊急輸送ネットワークへのアクセス強化を目指します。

また、既存の港湾施設については、重要度や性能低下度に応じた計画的な維持修繕やふ頭再編を行うとともに、航路機能を維持するため物流戦略と連携した海面処分場の計画的な確保を進めます。

戦略3（環境戦略）
自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

環境戦略においては、「仙台塩釜港 港湾脱炭素化推進計画」に基づき、官民が連携して脱炭素化に取り組むとともに、景観や自然環境と調和した水辺空間の形成を目指します。

戦略4（観光・交流戦略）
地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

観光・交流戦略においては、需要増大が見込まれる中・小型クルーズ船への対応力の強化を図るとともに、多様な方がアクセスしやすい二次交通体系の構築について官民連携して取り組みます。また、背後圏の関係者と連携し、インバウンド受入れや地域活性化に向けた取組を体系的に展開していきます。

5-1.施策実施の方向性

「物流戦略」、「防災・施設維持戦略」、「環境戦略」、「観光・交流戦略」の4つの戦略の主要施策ごとに短中期は概ね15年程度先、長期は20～30年程度先として、取組目標時期を以下のとおり想定しました。また、今後の社会情勢の変化も踏まえ柔軟に展開していくものとします。

＜取組時期＞

戦略	主要施策	港区	短中期	長期
戦略1（物流戦略）	(1)グローバルゲートウェイとして最高のコンテナ物流を実現	仙台	■	
	(2)国内長距離輸送を支えるユニットロードターミナルの機能強化	仙台 塩釜	■	
	(3)臨海部産業の持続的発展を支えるバルク港湾機能の強化	仙台 塩釜 石巻	■	
	(4)仙台塩釜港の持続的成長を支える集貨・創貨の促進と港湾人材の確保	仙台 塩釜 石巻	■	■
戦略2（防災・施設維持戦略）	(1)サプライチェーン維持と海上防災支援を担う拠点機能の強化	仙台 塩釜 石巻	■	
	(2)持続可能で強靱な港湾の形成に向けた施設の計画的メンテナンスの推進	仙台 塩釜 石巻 松島	■	
	(3)県内外の広域的な支援体制の構築と港湾BCPの充実強化	仙台 塩釜 石巻 松島	■	■
戦略3（環境戦略）	(1)国際拠点港湾としての社会的役割を踏まえた脱炭素化の着実な推進	仙台 塩釜 石巻 松島	■	■
	(2)自然環境の保全と共生に向けた取組の推進	仙台 塩釜 石巻 松島	■	■
戦略4（観光・交流戦略）	(1)各港区の連携・補完によるクルーズ船、インバウンドの受け入れ体制の強化	仙台 塩釜 石巻 松島	■	
	(2)地域の賑わい拠点となるウォータフロントの形成と魅力ある観光目的地づくりの推進	仙台 塩釜 石巻 松島	■	■
	(3)地域の実情を踏まえた適切なマリンレジャーの推進	仙台 塩釜 石巻 松島	■	■

5-2.施策展開における配慮事項

各施策を展開する上で、以下の点に配慮しながら、10年から15年程度先を目標期間とした「港湾計画」へ反映させ、仙台塩釜港の将来像である「宮城・東北の経済をけん引し、にぎわいと活気にあふれ、自然と共生する強靭な仙台塩釜港」の実現に向けて取り組みます。

○ 上位計画・関連計画等との整合性を定期的に確認するとともに、社会情勢や潜在的なニーズに応じた施策を柔軟に展開していきます。

○取組にあたっては、国・関係市町・港湾利用者など多様な主体と連携して進めます。

○ 港湾が持続的に発展するため、港湾会計における収入の増加に向けて利用促進を図るとともに、限られた資金、空間、人的資源を有効活用するなど、港湾経営の視点をもって戦略的に施策に取り組みます。

○ デジタル化や港湾DXを推進し、生産性の向上や働き方改革など各種施策を効率的かつ効果的に進めます。

○ 港湾への関心と幅広い理解を促すため、若者をはじめとする多様な世代に向けて、港湾の役割や価値、特徴について分かりやすく積極的に情報発信します。